

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 中国財務局長

**【提出日】** 平成24年11月13日

**【四半期会計期間】** 第62期第2四半期(自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日)

**【会社名】** 福留八ム株式会社

**【英訳名】** FUKUTOME MEAT PACKERS, LTD.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 中島修治

**【本店の所在の場所】** 広島市西区草津港二丁目6番75号

**【電話番号】** 082(278)6161(代表)

**【事務連絡者氏名】** 総務経理支援部長 中山哲志

**【最寄りの連絡場所】** 広島市西区草津港二丁目6番75号

**【電話番号】** 082(278)6161(代表)

**【事務連絡者氏名】** 総務経理支援部長 中山哲志

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第61期 第2四半期 連結累計期間	第62期 第2四半期 連結累計期間	第61期	
				会計期間
売上高	(千円)	14,575,805	13,718,216	28,747,716
経常利益	(千円)	275,547	89,131	509,118
四半期(当期)純利益又は四半期 純損失( )	(千円)	169,046	5,606	219,807
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	243,151	86,451	355,694
純資産額	(千円)	4,665,234	4,640,980	4,777,675
総資産額	(千円)	17,263,491	17,414,574	17,552,478
1株当たり四半期(当期)純利益 金額又は四半期純損失金額( )	(円)	10.12	0.34	13.16
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
自己資本比率	(%)	27.0	26.6	27.2
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	552,896	565,990	768,253
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	63,135	28,260	303,552
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	621,740	363,443	644,901
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	3,183,834	3,309,898	3,135,613

回次	第61期 第2四半期 連結会計期間	第62期 第2四半期 連結会計期間	
			会計期間
1株当たり四半期純利益金額	(円)	2.46	1.60

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、第61期及び第61期第2四半期連結累計期間は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。また、第62期第2四半期連結累計期間は1株当たり四半期純損失であり潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、前連結会計年度における有価証券報告書「第2 事業の状況4 . 事業等のリスク」に記載の事項から重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間（平成24年4月1日～9月30日）におけるわが国経済は、東日本大震災の復興需要を背景に緩やかな回復傾向にあるものの、欧州債務危機に伴う海外経済の減速、中国をはじめ新興国経済の減速及び長期化する円高による国内景気の減速懸念等、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当業界におきましては、包装資材及び燃料の高騰による製造コストの上昇及び消費者の節約志向や市場競争激化による加工食品価格の下落が続くなど、依然として厳しい環境で推移いたしました。

このような状況のなか、当社グループは、「お客様第一にあふれる味覚をお届けします」をモットーに「安心・安全・美味しさ」を追求し、経営理念のさらなる浸透を図るとともに、コンプライアンスを重視した社員教育を実施してまいりました。また、生産革新に基づく「ローコスト・オペレーション」を重視し、コスト削減に努めてまいりました。

販売に関しましては、当社の登録商標である「ロマンティック街道」シリーズや「ソースが決めてのおいしいハンバーグ」シリーズ、当社のオンリーワン商品である「花ソーセージ」の販売強化を図るとともに、9月より「秋のわくわくキャンペーン」などを展開し、拡販に取り組んでおります。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、137億18百万円（前年同四半期比5.9%減）となりました。利益につきましては、営業利益は67百万円（前年同四半期比75.7%減）、経常利益は89百万円（前年同四半期比67.7%減）、四半期純損失は5百万円（前年同四半期は1億69百万円の四半期純利益）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### 加工食品事業

加工食品事業につきましては、消費者の低価格志向や企業間競争の激化に伴う販売価格の下落により低迷するなか、当社ソーセージの主力である「花ソーセージ」は好調に推移いたしましたが、全体の落ち込みをカバーするまでにはいたりませんでした。

その結果、売上高は64億50百万円（前年同四半期比7.4%減）、セグメント利益（営業利益）は2億31百万円（前年同四半期比43.2%減）となりました。

## 食肉事業

食肉事業につきましては、国内牛においては、昨年のセシウム問題から回復傾向にあり、相場の回復がみられ、売上高、数量とも微増となりました。国内豚・輸入ミートにおいては、売上高、数量とも前年を下回って推移いたしました。

その結果、売上高は72億67百万円（前年同四半期比4.5%減）、セグメント利益（営業利益）は52百万円（前年同四半期比50.6%減）となりました。

### (2) 財政状態の分析

#### （資産の部）

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ1億37百万円減少の174億14百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ60百万円増加の81億59百万円となりました。主な要因は、現金及び預金1億74百万円と原材料及び貯蔵品34百万円の増加及び受取手形及び売掛金1億48百万円の減少によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ1億98百万円減少の92億54百万円となりました。主な要因は、有形固定資産の減価償却実施額等1億15百万円及び投資有価証券の評価替等1億13百万円の減少によるものであります。

#### （負債の部）

当第2四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ1百万円の減少の127億73百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ2億30百万円減少の91億51百万円となりました。主な要因は、支払手形及び買掛金1億32百万円増加と短期借入金4億44百万円の減少によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ2億29百万円増加の36億22百万円となりました。主な要因は、長期借入金1億82百万円の増加によるものであります。

#### （純資産の部）

当第2四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べ1億36百万円減少の46億40百万円となりました。主な要因は、利益剰余金の減少55百万円とその他有価証券評価差額金80百万円の減少によるものであります。

### (3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ1億74百万円増加の33億9百万円（前連結会計年度比5.6%増）となりました。

各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

#### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、5億65百万円（前第2四半期連結累計期間は5億52百万円の資金獲得）となりました。主な要因は、減価償却費2億4百万円及び売上債権の減少1億48百万円によるものであります。

#### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、28百万円（前第2四半期連結累計期間は63百万円の資金使用）となりました。主な要因は、有形固定資産の取得による支出28百万円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、3億63百万円（前第2四半期連結累計期間は6億21百万円の資金使用）となりました。主な要因は、短期借入金の純減額4億80百万円、長期借入金による収入5億円、長期借入金の返済による支出2億81百万円、配当金の支払額50百万円等によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は88百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間における研究開発活動の状況に重要な変更等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	68,000,000
計	68,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成24年11月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	17,000,000	17,000,000	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数は1,000株 であります。
計	17,000,000	17,000,000		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成24年9月30日		17,000,000		2,691,370		1,503,937

(6) 【大株主の状況】

平成24年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
有限会社福留興産	広島市西区草津港2丁目6-75	5,214	30.67
福栄会	広島市西区草津港2丁目6-75	1,786	10.51
福原康彦	広島市西区	643	3.78
滝沢ハム株式会社	栃木県栃木市泉川町556	384	2.26
中島修治	広島市西区	346	2.04
株式会社フジ	愛媛県松山市宮西1丁目2-1	316	1.86
株式会社もみじ銀行	広島市中区胡町1-24	311	1.83
福原治彦	広島市西区	300	1.77
福留ハム従業員持株会	広島市西区草津港2丁目6-75	294	1.73
株式会社広島銀行	広島市中区紙屋町1丁目3-8	242	1.42
株式会社伊予銀行	愛媛県松山市南堀端町1	232	1.37
計		10,070	59.24

(注) 1 福栄会は、当社の取引先企業で構成された持株会であります。  
 2 上記のほか当社所有の自己株式297千株(1.75%)があります。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成24年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式297,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 16,591,000	16,591	
単元未満株式	普通株式 112,000		
発行済株式総数	17,000,000		
総株主の議決権		16,591	

【自己株式等】

平成24年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 福留八ム株式会社	広島市西区草津港2丁目 6番75号	297,000		297,000	1.75
計		297,000		297,000	1.75

(注) 株主名簿上は、当社名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が1,000(議決権1個)あります。  
 なお、当該株式数は上記 [発行済株式] の「完全議決権株式(その他)」の欄に含めております。

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。



## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成24年7月1日から平成24年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成24年4月1日から平成24年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,405,613	3,579,898
受取手形及び売掛金	3,371,216	3,222,788
商品及び製品	870,707	874,458
仕掛品	50,135	45,086
原材料及び貯蔵品	281,750	316,146
繰延税金資産	95,747	101,876
その他	27,006	28,429
貸倒引当金	3,009	8,838
流動資産合計	8,099,166	8,159,845
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,385,409	2,322,618
機械装置及び運搬具（純額）	374,395	355,124
土地	3,350,427	3,347,087
リース資産（純額）	366,141	337,580
その他	31,495	29,924
有形固定資産合計	6,507,869	6,392,335
無形固定資産		
電話加入権	21,201	21,201
その他	1,832	1,913
無形固定資産合計	23,033	23,114
投資その他の資産		
投資有価証券	1,667,764	1,554,292
出資金	85,517	85,517
敷金及び保証金	133,259	133,059
保険積立金	21,107	34,081
繰延税金資産	948,659	975,034
その他	251,441	257,002
貸倒引当金	185,341	199,708
投資その他の資産合計	2,922,408	2,839,279
固定資産合計	9,453,311	9,254,729
資産合計	17,552,478	17,414,574

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,559,963	2,692,073
短期借入金	5,853,600	5,409,600
未払金	483,486	481,856
未払費用	89,742	91,838
未払法人税等	34,581	107,187
賞与引当金	214,546	217,317
リース債務	103,515	107,781
その他	42,240	43,563
流動負債合計	9,381,676	9,151,218
固定負債		
長期借入金	966,500	1,148,900
退職給付引当金	1,889,308	1,960,398
役員退職慰労引当金	228,731	236,831
リース債務	268,399	235,963
その他	40,186	40,282
固定負債合計	3,393,126	3,622,376
負債合計	12,774,802	12,773,594
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,691,370	2,691,370
資本剰余金	1,503,937	1,503,937
利益剰余金	467,855	412,140
自己株式	74,034	74,170
株主資本合計	4,589,129	4,533,278
その他の包括利益累計額		
その他の有価証券評価差額金	187,564	106,715
その他の包括利益累計額合計	187,564	106,715
少数株主持分	982	986
純資産合計	4,777,675	4,640,980
負債純資産合計	17,552,478	17,414,574

## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
売上高	14,575,805	13,718,216
売上原価	11,764,097	11,170,166
売上総利益	2,811,707	2,548,049
販売費及び一般管理費	2,534,040	2,480,655
営業利益	277,666	67,393
営業外収益		
受取利息及び配当金	13,681	16,586
不動産賃貸料	29,820	29,820
その他	19,703	29,154
営業外収益合計	63,204	75,560
営業外費用		
支払利息	59,264	53,822
その他	6,059	-
営業外費用合計	65,324	53,822
経常利益	275,547	89,131
特別利益		
固定資産売却益	4,822	30
投資有価証券売却益	-	1,061
収用補償金	38,570	-
特別利益合計	43,392	1,091
特別損失		
投資有価証券評価損	-	26,542
固定資産除却損	61	5
減損損失	-	3,340
特別損失合計	61	29,889
税金等調整前四半期純利益	318,879	60,333
法人税、住民税及び事業税	173,086	96,398
法人税等調整額	23,256	30,462
法人税等合計	149,830	65,936
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失( )	169,048	5,602
少数株主利益	2	4
四半期純利益又は四半期純損失( )	169,046	5,606

【四半期連結包括利益計算書】  
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失( )	169,048	5,602
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	74,103	80,848
その他の包括利益合計	74,103	80,848
四半期包括利益	243,151	86,451
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	243,149	86,455
少数株主に係る四半期包括利益	2	4

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	318,879	60,333
減価償却費	222,823	204,249
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	4,705	8,100
貸倒引当金の増減額(は減少)	53	20,197
退職給付引当金の増減額(は減少)	51,493	71,090
受取利息及び受取配当金	13,681	16,586
支払利息	59,264	53,822
有形固定資産売却損益(は益)	4,822	30
有形固定資産除却損	61	5
減損損失	-	3,340
収用補償金	38,570	-
投資有価証券評価損益(は益)	-	26,542
投資有価証券売却損益(は益)	-	1,061
売上債権の増減額(は増加)	126,823	148,427
たな卸資産の増減額(は増加)	48,999	33,098
仕入債務の増減額(は減少)	77,086	87,755
その他	78,222	13,804
小計	676,892	619,284
利息及び配当金の受取額	14,111	16,569
利息の支払額	58,323	46,257
収用補償金の受取額	38,570	-
法人税等の支払額	118,353	23,606
営業活動によるキャッシュ・フロー	552,896	565,990
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	68,194	28,497
有形固定資産の売却による収入	5,224	38
投資有価証券の取得による支出	5,662	5,948
投資有価証券の売却による収入	-	11,046
その他	5,496	4,898
投資活動によるキャッシュ・フロー	63,135	28,260
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(は減少)	220,000	480,000
長期借入れによる収入	-	500,000
長期借入金の返済による支出	310,750	281,600
配当金の支払額	50,110	50,108
リース債務の返済による支出	40,810	51,599
自己株式の取得による支出	69	135
財務活動によるキャッシュ・フロー	621,740	363,443
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	131,979	174,285
現金及び現金同等物の期首残高	3,315,814	3,135,613
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,183,834	3,309,898

【継続企業の前提に関する事項】

該当事項はありません。

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

該当事項はありません。

【会計方針の変更】

当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更) 当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。 これによる当第2四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

該当事項はありません。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。なお、当第2四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
受取手形	7,094千円	5,034千円
支払手形	千円	4,735千円

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
給料手当	711,705千円	690,228千円
賞与引当金繰入額	134,325 "	132,333 "
退職給付費用	137,910 "	134,649 "
貸倒引当金繰入額	625 "	24,658 "
荷造運搬費	501,742 "	486,907 "
販売奨励金	231,279 "	215,140 "
役員退職慰労引当金繰入額	7,205 "	8,100 "

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
現金及び預金	3,353,834千円	3,579,898千円
預入期間が3か月を超える 定期預金	170,000 "	270,000 "
現金及び現金同等物	3,183,834千円	3,309,898千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年5月13日 取締役会	普通株式	50,110	3	平成23年3月31日	平成23年6月10日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年5月14日 取締役会	普通株式	50,108	3	平成24年3月31日	平成24年6月8日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。



(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計
	加工食品事業	食肉事業	
売上高			
外部顧客への売上高	6,964,965	7,610,840	14,575,805
セグメント間の内部売上高 又は振替高			
計	6,964,965	7,610,840	14,575,805
セグメント利益	406,568	106,576	513,145

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	513,145
全社費用(注)	235,479
四半期連結損益計算書の営業利益	277,666

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であり、提出会社の管理部門に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計
	加工食品事業	食肉事業	
売上高			
外部顧客への売上高	6,450,250	7,267,966	13,718,216
セグメント間の内部売上高 又は振替高			
計	6,450,250	7,267,966	13,718,216
セグメント利益	231,048	52,697	283,745

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	283,745
全社費用(注)	216,352
四半期連結損益計算書の営業利益	67,393

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であり、提出会社の管理部門に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			全社・消去	合計
	加工食品事業	食肉事業	計		
減損損失				3,340	3,340

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額 ( )(円)	10.12	0.34
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は四半期純損失金額( )(千円)	169,046	5,606
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益金額又は四半期純損失金額 ( )(千円)	169,046	5,606
普通株式の期中平均株式数(千株)	16,703	16,702

- (注) 1. 前第2四半期連結累計期間において潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
 2. 当第2四半期連結累計期間において潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年11月12日

福留八ム株式会社  
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 近藤 敏博

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 中原 晃生

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている福留八ム株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成24年7月1日から平成24年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成24年4月1日から平成24年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、福留八ム株式会社及び連結子会社の平成24年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。  
以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。